



# みなみ

南小の校訓：ほんきに なかよく がんばる



石岡市立南小学校  
学校だより No.19  
発行日 2024.1.9  
文責 校長(山口)

## 新たな年を迎えて

新年 あけまして おめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。令和6年が、みなさまにとって、良い年でありますよう、祈念申し上げます。

令和6年度には高浜小、三村小、関川小との統合を迎えます。この3校に関わる方々が、「南小は素敵な学校だな」と感じてもらえるよう、ホスト校として統合に向けた準備を整えていきたいと思ひます。保護者のみなさま方には、昨年度と同様に、2月にリニューアル校舎への引っ越し手伝いをお願いする予定です。スケジュールが明らかになり次第お知らせいたしますので、ご協力をお願いいたします。

冬休み明け集会で、児童に話した内容を掲載いたします。

令和6年の幕開けに、地震や航空機事故等の大きな出来事が発生しました。みなさんも、色々なことを感じ、考えたことと思ひます。地震では「逃げてください」という絶叫に近いアナウンスがあったので急いで避難できた・・・、航空機事故では客室乗務員の避難誘導で奇跡の脱出・・・などが報道されました。緊急時にあっても、正確な情報を冷静に受け止め、状況に応じた適切な行動が生死を分けたといえます。それは、人と人の「信じられる」「安心できる」関係に支えられてこそではないでしょうか。人同士がこうした関係性を持つには順番があります。これからお話しすることは、「心理学」の研究から、分かってきたことです。

人は誰でも「心のドア」を持っています。「心のドア」には特徴があります。普通のドアには、内側にも外側にもノブが付いていて、どちらからも開けられます。でも「心のドア」には、内側にだけドアノブがあります。だから、心のドアは、内側にいる自分だけが開けられ、外の人は開けられないのです。自分がドアを開く、相手もドアを開く、自分と相手の両方が、二人合わせてドアを開けないと、心が触れ合うことはありません。互いにドアを開け、触れ合いを積み重ねて関係が深まり、「信じられる」「安心できる」ようになります。まずは、自分がドアを開くことが大切です。

人は誰でも、不安になったり心配したりします。「この人は、信じられる人なのかな？」という心配があると、つついドアに鍵をかけてしまいます。しかし、これを続けていると、最後は一人ぼっちになってしまいます。「いつかきっと、自分を分かってくれる人が来て、私の心のドアを開けてくれる・・・」と夢を見る人がいますが、これはおとぎ話の話であって、実際には現れません。だって、「心のドア」のノブは外側には付いていないからです。

また、人との関係がうまくいかないと「人のせいにする」ことがあります。「人のせいにする」人に、心のドアを開けるでしょうか？ 締めておいた方が、安全ですよね。結果その人は、人との関係は作れません。「自分はどうかな？」と考えてみましょう。

人との関係を深める5つの階段があります。1つ階段をクリアしたら、次の階段のクリアを目指してください。どの階段でも大切にすることは、温かな言葉づかいです。「〇〇しないで！」「××はいやだ！」などの表現では、相手は「心のドア」を明けてくれなからです。

ステップ1: 自分から「あいさつ」と「笑顔」の表現をしましょう。あいさつはきっかけを作り、笑顔は不安を減らします。

ステップ2: 心を開く練習をしましょう。例えば「今日は良い天気だね」「そうだね」のように、人に話しかける。その話を受ける。とても簡単なことで、毎日の生活でできますね。

ステップ3: 質問したり、答えたりをきちんとしましょう。「これはどうするの？ 教えて」「うん、それはね・・・」のように、きちんと相手に言葉で伝えること、相手の言葉に応えること、答えてくれたら「ありがとう」ということ、言葉のつながりが大切です。

ステップ4: 「うれしかったね」「うん、わたしも」と、気持ちをきちんと伝えましょう。相手の気持ちには、自分の気持ちを返すこと。「相手の気持ちをきちんと聞く」「自分の気持ちを返す」このやりとりができると、信頼関係が深まります。ここで大切なことは、相手の気持ちと自分の気持ちが変わっても、「嘘をつかないこと」「期待した答えと違って受け入れること」です。「リンゴが好き」→「わたしはミカンの方が好き」は受け入れられますよね。リンゴやミカンが好きな芸人か友達の名前でも同じです。人それぞれ違うのですから、違いを大切にすることです。

ステップ5: 相手の気持ちを大切に、相手のために行動しましょう。ポイントは「やってあげたんだから、何か返しなさいよ・・・」のように相手に要求しないことです。相手に見返りを要求する人は、人からの信頼を失うことが多いのです。

こうしてみると、5つのステップは、毎日の学校生活でできます。日頃から適切な言葉遣いをしましょう。チョット勇気を出して、心のドアを開けましょう。実は、これを小学校、中学校のときに沢山経験することが大切です。最近の研究では、大人になってからこれをはじめると、とても難しいことが分かっています。小学校のうちから、自分で意識した生活を送ってみましょう。